

令和5年度 物性研究所一般公開の報告

一般公開委員会委員長 杉野 修

本年度の一般公開は、「探し出せ! 「もの」の中のすごいもの」のキャッチコピーのもと、2023年10月27日(金)、28日(土)に行われた。昨年度までの3年間はオンラ



図1: 本館入り口付近の賑わい

イン開催であったが、今年度は現地開催で行われ、久々に最先端の研究の現場をご覧いただく絶好の機会となった。天候にも恵まれ、27日1,205人、28日2,386人、駅前ブ

ース32人(2日間)、計3,623人の方々にご来場いただき、4年前同様の大盛況となった(図1)。アフターコロナの時期を迎えたものの、マスクを着用、随所にアルコール消毒スプレーを配置しての一般公開となった。今回はイベント数が例年より少い10件となったため、密を避けて開催することができた。展示はB棟、C棟、K棟、D棟、本館6階の順に回れるように配置され、一通り回ってスタンプを集めてクイズに答えれば、物性研オリジナルマグネットがもらえる(図2)。このクイズラリーは特に盛況で、毎回来場してマグネットを収集している来場者も何人か見受けられた。今年はこの色が欲しいというリクエストもあった。

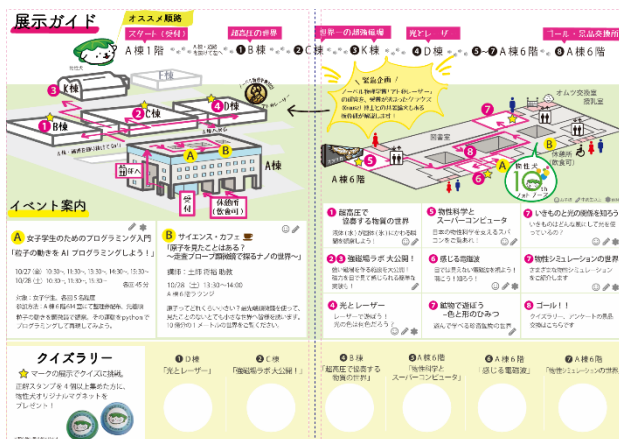


図2: 物性研展示のパンフレット

サイエンスカフェはA棟6Fラウンジで土曜日13:30~14:00に行われ、長谷川研の土師助教が興味深い講演を行った。「原子を見たことはある?~走査プローブ顕微鏡で探るナノの世界~」という演題で、原子ってどれくらい小さいの?最先端顕微鏡を使って見える10億分の1メートルの世界はどのようなものなの?という疑問に答えていた(図3)。



図3: サイエンスカフェの様子(左)とパンフレット(右)。

イベントとしてはこの他に、林研究室の林教授による「女子学生のためのプログラミング入門」が行われた。粒子の動きを顕微鏡で観察して、その運動をpythonでプログラミングして再現するという企画であり、女子学生を対象とした新たな試みであった。本企画は、同時開催された「女子中高生向けイベント「未来をのぞこう!」」と連携して行われたものである。



図4: 女子学生のためのプログラミング入門

その間、上記イベントを脇から盛り上げる物性犬とチーバ君の姿があった(図5)。特大の物性犬は、公式キャラクター10周年を祝う飾りを身にまとい、そのかわいらしい姿は、お子様だけでなく同伴の保護者にも人気があった。



各研究室から出展されている企画を回る 図5: 公式キャラクター10周年の飾りを身に纏って一般公開を祝う物性犬。チーバ君と共に。

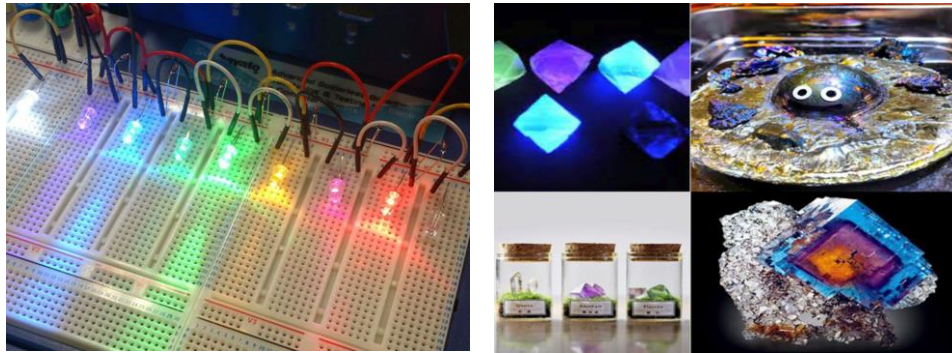


図 8:企画⑥～⑦。⑥感じる電磁波(左下)、⑦鉱物で遊ぼう-色と形のみみつ(右下)。

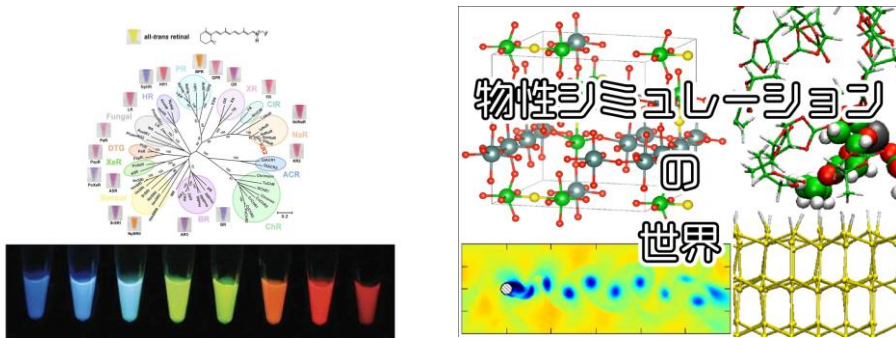


図 9:企画⑧～⑨。⑧いきものと光の関係を知ろう(左)、⑨物性シミュレーションの世界(右)

一般公開が3年間開催されない間に、大学院生や事務部のスタッフが卒業や異動をされて開催のノウハウがかなり失われてしまっていることに気づかされた。それでも試行錯誤ながら、企画やイベントに携わった数多くの皆様の創意工夫の下、盛況の下終えられたのは何よりの事であった。特に、まだ気温の高い異常気象下の秋ではあったものの特別に晴天に恵まれ、地域の皆様とお祭り気分を味わえたことは格別であったと思う。配布された弁当の質の高さからも特別感を感じる事ができた。

準備を主導していただいた大木副事務長、さらに青木事務長、小野副事務長をはじめとする物性研総務係の皆様、ウェブサイトの作成等を担当された広報室の餅田さん、サイエンスカフェを企画された研究戦略室の鈴木さん、さらに一般公開委員の工藤さんと坂本さん、ボランティアの大学院生をはじめとして多くの方に支えられて行われた一般公開は予定通り終了し、その労はカフェテリアで行われた打ち上げパーティーの場でねぎらわれた。

今回は、昨年度まで行われてきたオンライン開催のノウハウを発揮することはできなかったが、将来的にはソフトウェアやインターネット回線が格段に進化して準備のための労力も劇的に軽減すると考えられるので、それを生かす形でハイブリッド的な開催を試みるのも良いかもしれない。一般公開の負荷が特定の人に集中するために、研究活動がその間少し休止状態となるような事例は今回も見受けられたが、この問題を今後どのように解消していくのかの議論も続けていく必要はあろう。限られた人的、予算的リソースの下でそれを最大限に生かす形で一般公開を未来につないでいくことは極めて重要なことである。しかし、その議論をあまり深めることなく次期委員長の岡崎准教授に引き継ぐことになってしまうことは反省の材料である。これからも一所員としてこの課題を考え続けたいと思う。